



一般社団法人

# 沖縄住宅産業協会

## 第2回定例会・懇親会を開催

沖縄住宅産業協会は、2023年2月24日(金)に令和4年度定例会をノボテル沖縄那覇で開催しました。高宮城啓之理事長は、日本銀行那覇支店の飯島浩太支店長を講師に招いたセミナーを前に、「当協会は金利に左右される業界なので、セミナーの内容を会員の経営に生かしていただきたい」と述べました。

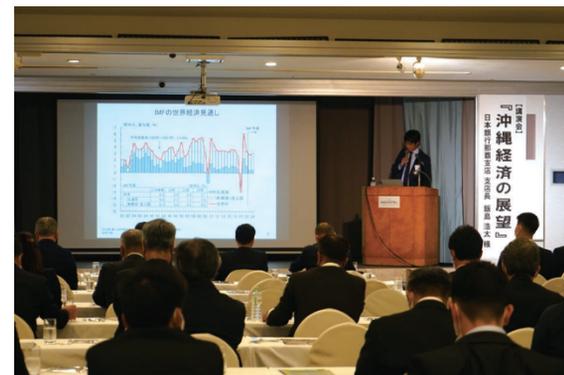
セミナーでは、飯島氏が「沖縄経済の展望」と題し、沖縄経済の持続的成長の実現に向けた課題などについて講演しました。飯島氏は2023年の沖縄経済について、産業の主軸でもある観光業がコロナ禍に比べて観光客数や主要ホテルの稼働率が伸びていることなどから、コロナ禍の影響が和らぐもとで回復すると予測。

持続的成長の実現するための対策として、回復する需要の取り込みや、資源の価格上昇に対する適切な価格転嫁を挙げました。さらに、人手不足の課題には、「機械ができる仕事は機械が担うよう設備投資を行い、人材への投資にはスキル向上、賃上げを行うことで1人ひとりの生産性を上げることが必要」と話しました。

また、県内では2019年から貸家の新設住宅着工数が地価の上昇や資材の高騰などから大幅に減少している点について触れ、「今後いつごろから着工数が増加するか注目すべき点」と述べました。

定例会では、正会員に入会した株式会社大央ハウジングが紹介されたほか、会員らによる商品説明では、興産アメニティ会社は「3D内覧システムの紹介」、株式会社琉球銀行は「ZEH専用住宅ローンとZEP Ryukyu」について、各社の担当者が取り組みを紹介しました。

その後の懇親会では、飯島氏の来賓挨拶や正会員入会の紹介、昨年中部興産株式会社の新社



長に就任した新垣貴雪氏の紹介などが行われたほか、飲食を交えながら会員同士の情報交換を行うなど、親睦を深めました。

中締めには、協会副理事長の金城淳也氏が登壇し、定例会で恒例となった「令」の文字をかたどり両手を広げて片足を上げる「令和締め」を会員全員で行い、会を締めくくりました。

